

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和04年08月05日

計画の名称	姫路駅周辺地区（第2期）都市再生整備計画事業												
計画の期間	平成29年度～平成31年度（3年間）										重点配分対象の該当	○	
交付対象	姫路市												
計画の目標	世界文化遺産・姫路城を擁する中核市及び西播磨テクノポリスの母都市にふさわしい、賑わいと感動のあふれる姫路駅周辺の再生 ・大規模集客施設の整備や新たな民間施設の立地誘導により、市街地の活性化やコンパクトシティの実現に貢献する拠点づくり ・新たな都市機能施設やにぎわい施設の中で、人々が集い、賑わい、交流するまちづくり ・行政と市民、民間事業者等の連携・協働でのまちづくり												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	3,537	A	3,520	B	0	C	17	D	0	効果促進事業費の割合C / (A+B+C+D)	0.48	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (H29当初)	中間目標値	最終目標値 (H33末)
1	新たな魅力の創出と移動環境の向上による回遊性の向上の効果として、歩行者・自転車通行量を増加させる。 中心市街地における、一日あたりの歩行者・自転車通行量（7箇所の合計）を測定する。	63639人	人	83700人
2	都心部の魅力向上や交通利便性の向上による中心市街地への効果の波及として、鉄道乗降客数を増加させる。 J R 姫路駅及び山陽電鉄姫路駅の、一日あたりの平均乗車人数を測定する。	63236人	人	66786人
3	姫路駅南駅前広場整備によるピーク時の交通混雑を減少させる。 姫路駅南駅前広場における、ピーク時の通過車両数の合計を測定する。	222台	台	155台
4	大手前通りの再整備によるにぎわい創出の効果として、イベント開催数を増加させる。 中心市街地における、公共空間利活用のルールのもとで行われるイベント実施日数を測定する。	286件	件	321件

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	○	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-	避難確保計画の策定	避難行動要支援者名簿の提供
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---	-----------	---------------

A 基幹事業																					
基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況		
												H29	H30	H31	R02	R03					
		一体的に実施することにより期待される効果																			
		備考																			
都市再生整備計画事業	A10-001	都市再生	一般	姫路市	直接	姫路市	-	-	姫路駅周辺地区(第2期))都市再生整備計画事業	A=97ha	姫路市						3,520		-		
		旧要素事業番号:A-1																			
												小計							3,520		
											合計							3,520			

C 効果促進事業																			
基幹事業（大）	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H29	H30	H31	R02	R03			
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
都市再生整備計画事業	C10-001	都市再生	一般	姫路市	直接	姫路市	-	-	コミュニティサイクル事業	サイクルポート20箇所	姫路市						17	-	
		姫路駅周辺地区（第2期）都市再生整備計画事業と一体的に実施することにより、公共交通の新たな端末交通手段としてコミュニティサイクル事業を実施し、都心部の回遊性を高める。																	
		旧要素事業番号：C-1																	
											小計						17		
											合計						17		

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制

姫路市において目標の達成状況と指標の達成状況を確認。

事後評価の実施時期

令和4年8月

公表の方法

姫路市ホームページにて公表

事業効果の発現状況

定量的指標に関連する
交付対象事業の効果の発現状況

- ・ 歩行者・自転車通行量は増加傾向にあり、大手前通りやコミュニティサイクルの整備により来訪者の利便性が増し指標改善に一定の効果があった。
(実績値は新型コロナウイルス感染症による影響)
- ・ 鉄道乗降客数は区画整理事業や駅前広場・関連道路事業等の基盤整備により駅周辺の居住者が増加したことにより増加したと思われる。
- ・ 交通混雑の解消は、周辺道路の整備により通過する車両が駅前に集中しなくなったと思われる。
- ・ イベント数の増加は、駅周辺の魅力ある都市空間の整備により多くの集客が見込めるようになり増加したと思われる。

定量的指標以外の交付対象事業の
効果の発現状況(必要に応じて記述)

特記事項(今後の方針等)

- ・ 大手前通りエリア魅力向上推進事業と連携し官民協働によるまちづくりを推進しまちの賑わいを増進させる。
- ・ コンパクトシティを推進するために都市基盤整備の整備が必要となるため駅周辺及び駅南西地区の土地区画整理事業を推進する。
- ・ 周辺地域へ賑わいを波及させるためにイベント空間を整備し公共空間でのイベント開催を推進する。
- ・ 歩行者・自転車の通行量を増加させるために公衆無線LANの整備や大手前エリア魅力向上推進事業との連携、空き店舗を活用したまちづくり等を実施しまちの回遊性向上を図る。

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	最終目標値	83700人	中心市街地における、一日当たりの歩行者・自転車通行量（7箇所合計）を測定する。 新型コロナウイルス感染症により外出自粛要請による影響があった。
	最終実績値	33428人	
2	最終目標値	66786人	JR姫路駅及び山陽電鉄姫路駅の、一日あたりの平均乗車数を測定する。 平成の大修理から約5年が経過し、観光客数が減少した影響があった。
	最終実績値	67483人	
3	最終目標値	155台	姫路駅南駅前広場における、ピーク時の通過車両数の合計を測定する。 駅周辺の道路・駅前広場の整備が完了したことや駅前広場への車両規制による効果が現れている。
	最終実績値	66台	
4	最終目標値	321件	中心市街地における、公共空間利活用のルールのもとで行われるイベント実施日数を測定する。 イベントが出来る魅力ある空間として広く周知されたことにより人が集い、賑わい交流の場として利用されている。
	最終実績値	415件	

(参考図面)

計画の名称	姫路駅周辺地区（第2期）都市再生整備計画事業	交付対象	姫路市
計画の期間	平成29年度 ～ 令和1年度（3年間）		

